



「平成30年7月豪雨」被害の皆様にお見舞い申し上げます

このたび発生した「平成30年7月豪雨」により亡くなられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々と関係者の方々に謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

会員様からは、道路の寸断による渋滞発生等により、飼料の搬入や卵の搬出・納入など物流面での被害が発生したとの報告が多数寄せられました。施設面での損害としては、土砂崩れによる鶏舎の一部損傷、鶏舎設置場所のり面の崩落、養鶏場内で鶏舎への通行路の土砂崩れ等が報告されましたが、現在では応急処理等で業務を再開されております。

収入保険制度について

農林水産省から平成31年1月から新たに始まる「収入保険」について、お知らせがありましたので、ご紹介します。

この収入保険は、農業をされている方の経営努力では避けられない、自然災害や農産物の価格の低下などで、売上が減少した場合に、その減少分の一部を補償する保険です。基本的に、米、畑作物、野菜、果樹、花、**肉用鶏**など農産物ならどのような品目でも対象となりますが、別途、経営安定対策が措置されている肉用牛、肉用子牛、肉豚、**鶏卵は対象外**となっておりますので、ご注意ください。

保険料率は1.08% (50%の国庫補助後) で、収入保険に加入していれば、農家ごとの平均収入の8割以上の収入が確保されます。

今年の秋から加入申請が始まり、青色申告の実績が1年分あれば加入できます。

詳しくは、下記の農林水産省ホームページをご覧ください。各地域の農業共済組合にお問い合わせください。

URL : http://www.maff.go.jp/j/keiei/nogyohoken/syu_kyosai.html



採卵鶏の飼養動向



平成30年7月3日、農林水産省から畜産統計（平成30年2月1日現在（速報値））が公表されましたので、採卵鶏の調査結果について、その概要を紹介します。

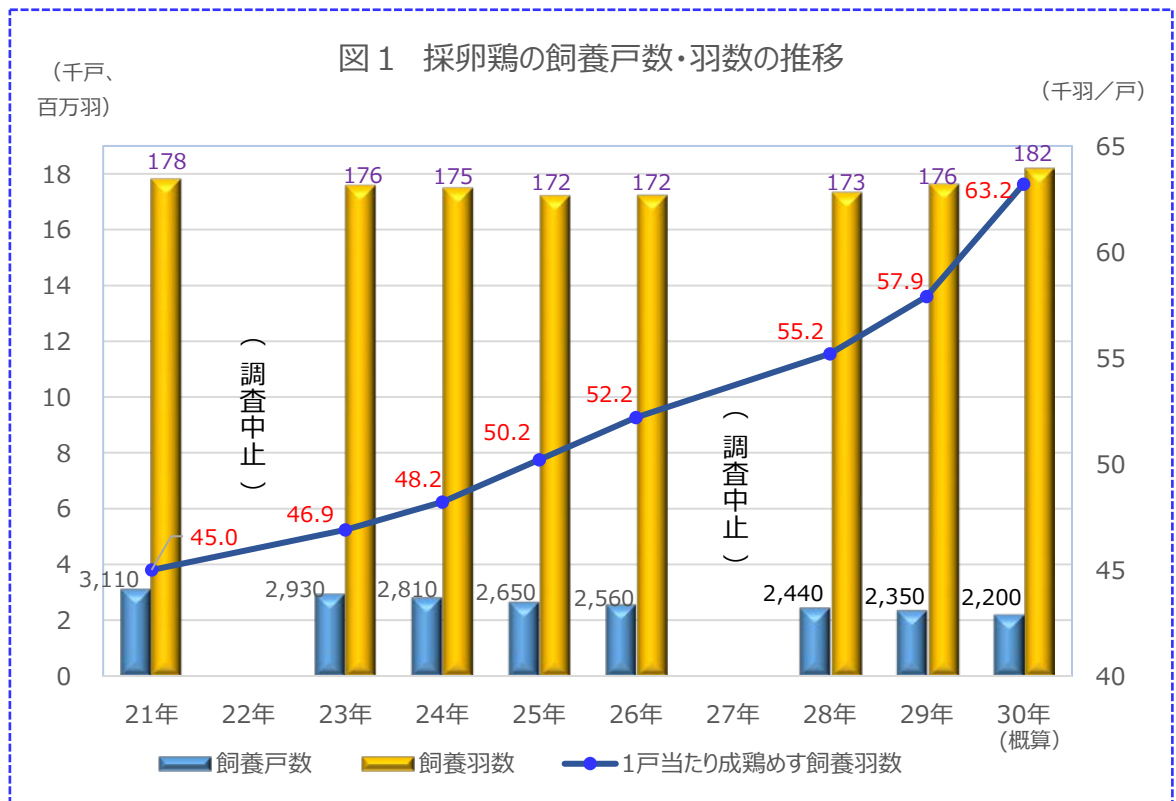
1. 飼養戸数

採卵鶏の飼養戸数は2,200戸で、廃業等により前年に比べ150戸（6.4%）減少しています。飼養戸数は、減少傾向で推移しており、平成21年以降の10年間では3割減となっています。

2. 飼養羽数

採卵鶏の飼養羽数は1億8,195万羽で、前年に比べ558万羽（3.2%）増加しており、3年連続の増加となりました。

このうち、成鶏めす（6か月齢以上）の飼養羽数は1億3,904万羽で、前年に比べ294万羽（2.2%）増加しており、平成26年以降増加傾向で推移しています。この結果、1戸当たり成鶏めす飼養羽数は6万3,200羽で、前年に比べ5,300羽増加しており、規模拡大が進展しています。

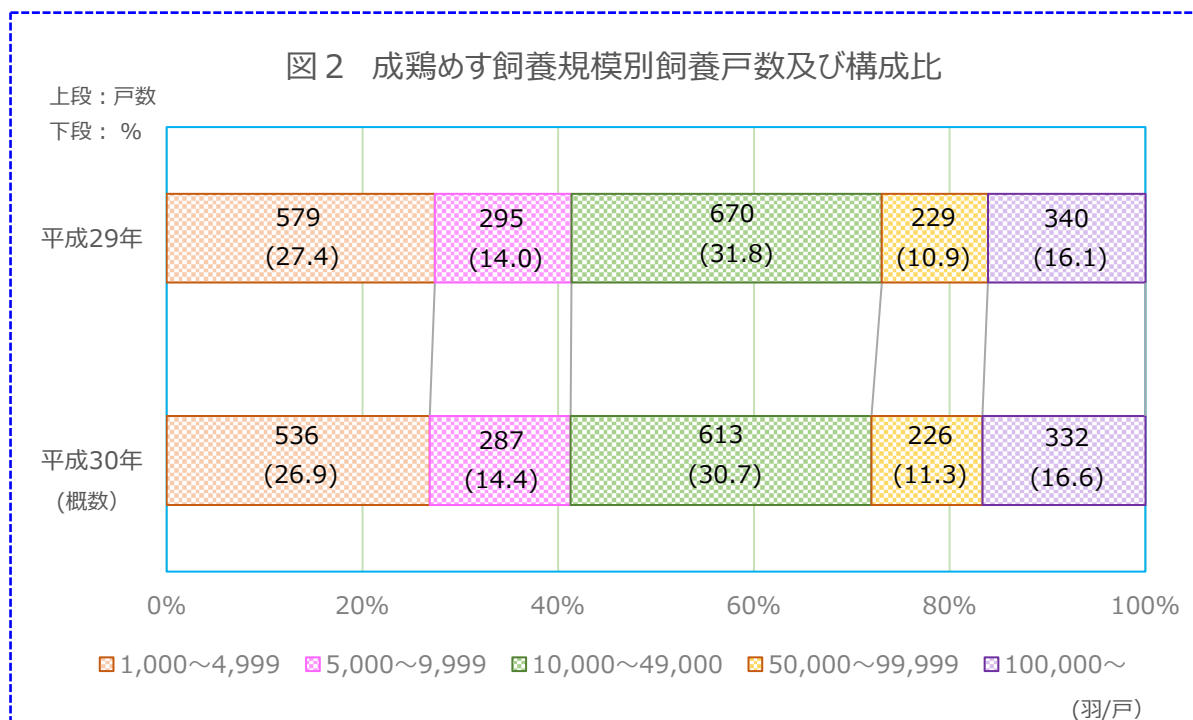


出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

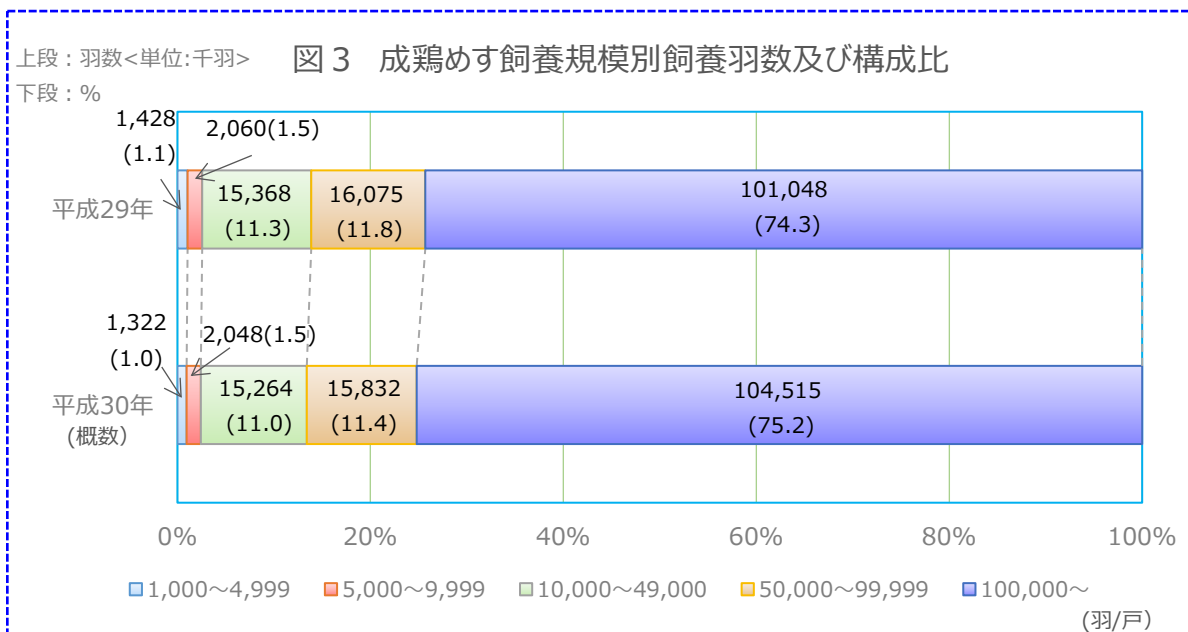


3. 成鶏めすの飼養羽数規模別飼養戸数・羽数

成鶏めすの飼養戸数及び飼養羽数を規模別（学校等の非営利的な飼養者を除く対象先 1,994 戸）にみると、飼養戸数は前年と同様に全ての階層で減少となりました。一方、飼養羽数 10 万羽以上の階層は総飼養戸数の 16% (332 戸) にすぎないものの、総飼養羽数に占める割合は 75% を超えており、大規模階層飼養者の飼養割合は年々高まっています。



出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

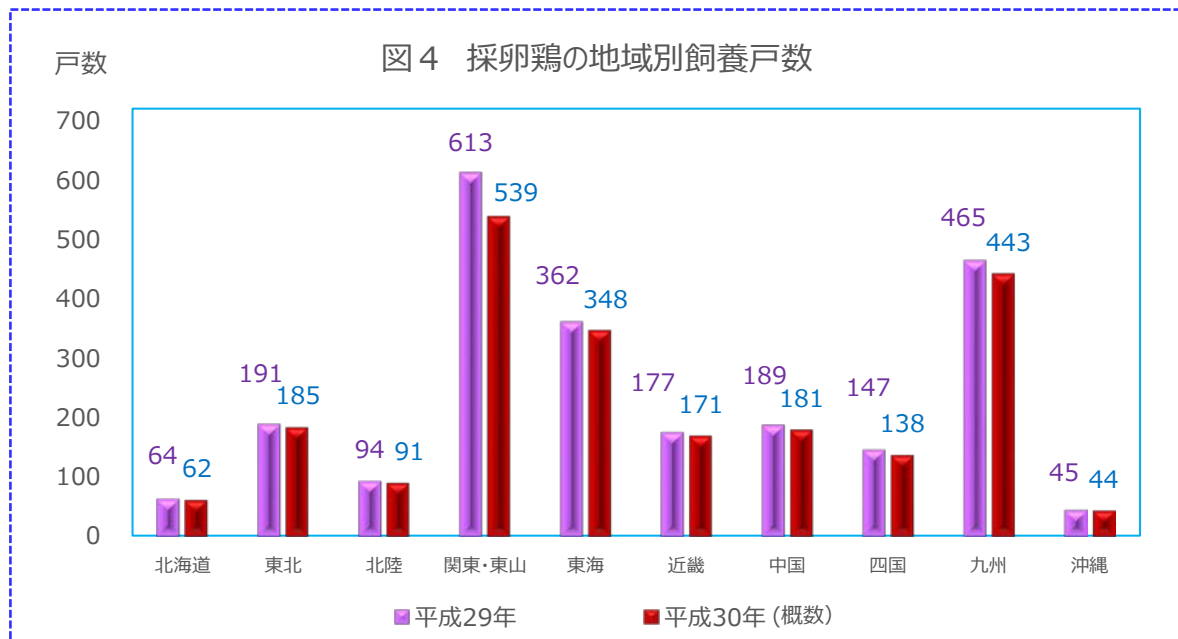


出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

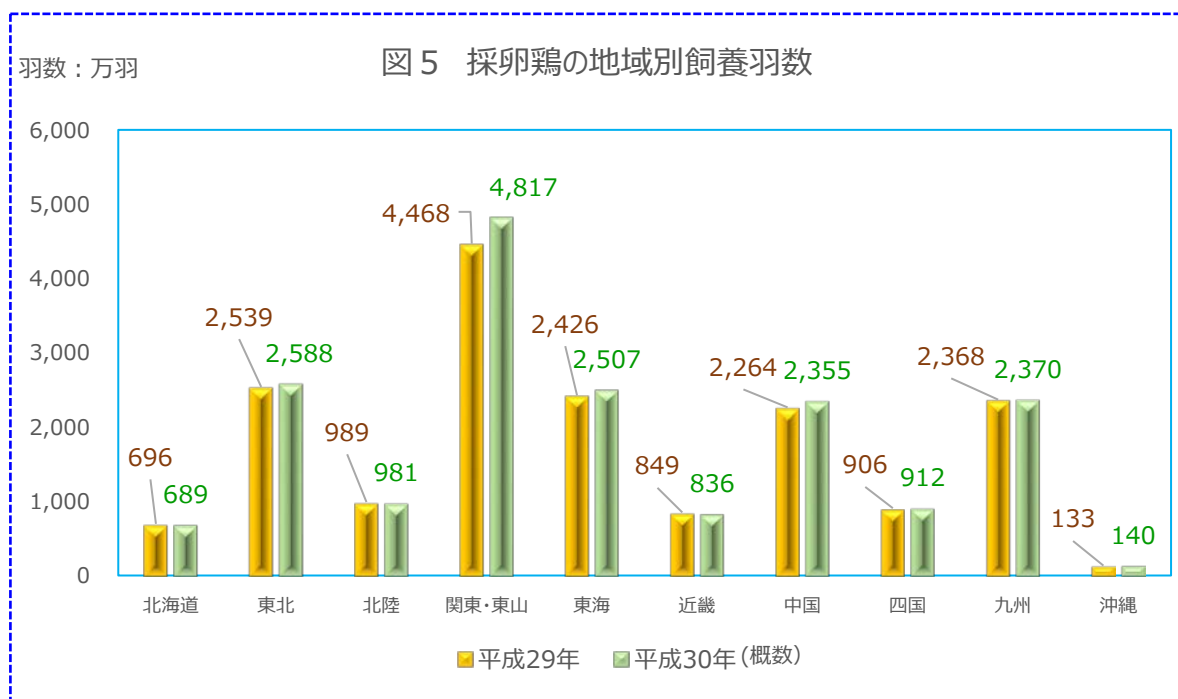


4. 地域別飼養戸数・羽数

飼養戸数及び飼養羽数を地域別にみると、飼養戸数は、前年に比べ全ての地域で減少となりました。飼養羽数は、北海道、北陸、近畿で減少したものの、その他の地域では増加しており、特に関東・東山（山梨・長野）では7.8%、中国では4.1%、沖縄では5.2%の増加となっており、関東・東山は全国の約3割を占めています。



出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」



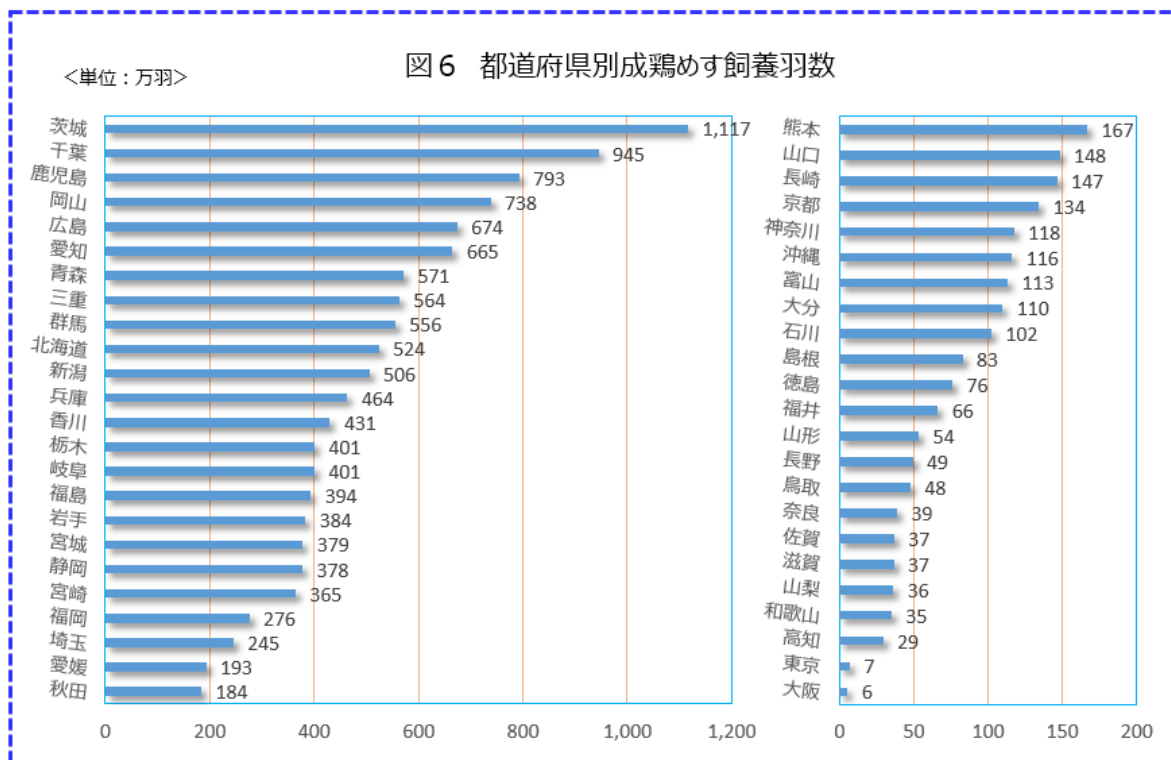
出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」



5. 都道府県別成鶏めす飼養羽数

平成30年2月1日現在における都道府県別成鶏めす飼養羽数をみると、茨城県が1,117万羽（構成比8.0%）と最も高く、2位千葉県945万羽、3位鹿児島県793万羽、4位岡山県738万羽、5位広島県674万羽の順になっており、上位5県で全国の31%を、上位10道県では51%を占めています。

なお、上位5県の順に変動はないものの、上位10道県では三重県が前年の11位から8位に躍進しています。



出典：農林水産省「畜産統計（各年2月1日現在）」

輸入飼料に含まれるクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害への対応について

農林水産省では、海外で使用された農薬の成分（クロピラリド）が含まれた輸入飼料を給与した家畜の排せつ物に由来する堆肥を通じて、クロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生事例が散見されていることから、農家への注意喚起を行うとともに、輸入飼料及び堆肥中に含まれるクロピラリド濃度の調査が行われてきたところです。

今回、調査において、牛、馬のほか、豚及び鶏の堆肥からもクロピラリドが検出（施用による生育障害発生の報告はなし。）されたことを受け、「牛ふん堆肥中のクロピラリドが原因と疑われる園芸作物等の生育障害の発生への対応について」



(生産局畜産部畜産振興課長及び飼料課長連名通知)が発出され、クロピラリドを含む可能性がある堆肥の提供や使用にあたっての注意事項について、本会会員への周知依頼がありましたので、お知らせします。クロピラリドは、米国、豪州、カナダ等で粗飼料や飼料穀類の生産に使用されている除草剤の成分で、家畜や人に対する毒性は低く、健康に影響を及ぼす心配はありませんが、トマト、ナス、大豆、スイートピー、マメ科牧草などは耐性が弱いとされるため、これらの作物に対し、輸入飼料を給与した家畜の排せつ物由来の堆肥を使用した場合、生育障害を起こす可能性がありますので注意が必要です。

クロピラリドに関する情報については、農林水産省HPに掲載されておりますので、ご確認ください。

〈農林水産省 クロピラリドに関する情報〉

<http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/clopyralid/clopyralid.html>

「国際たまごシンポジウム in KYOTO 2018」開催のご案内

本年9月にIEC京都大会が開催される事は、日鶏協ニュース等でお知らせしたところですが、10月には日本たまご研究会、タマゴ科学研究会の共催で「国際たまごシンポジウム in 京都 (International Egg Symposium in Kyoto 2018)」(日本語と英語の同時通訳付き)が下記日程で開催される事が決定しました。

今回のシンポジウムでは「卵の安全性と栄養・調理・健康機能」をテーマに国内外から18名の著名な卵研究者を招き、エキサイティングな最新の研究成果をご講演していただきます。皆さまのご参加をお待ちしております。

【日時】2018年10月16日(火)～17日(水)

【会場】メルパルク京都 6階 ((JR 京都駅 中央口出て 徒歩1分)

【内容】プログラム等詳細は以下のホームページをご覧ください。

http://japaneggscience.com/kyoto_egg_symposium.html

【参加費】一般：講演会のみ： 12,000円 (学生は無料)

講演会と懇親会 17,000円 (学生は3,000円)

【主催】国際たまごシンポジウム in 京都 2018 実行委員会

【共催】日本たまご研究会、タマゴ科学研究会

【申込】上記URLのホームページからお申し込みください。(先着受付順)

【問合せ】国際たまごシンポジウム 事務局 京都女子大学 八田研究室

Email: nihontamaken@gmail.com またはホームページのお問い合わせから



たまニコ AGAIN2018～日本縦断チャリリレー～ ゴール!!

(一社)日本卵業協会内「たまニコ AGAIN2018 実行委員会」委員長 野田 裕一郎様より「たまニコ AGAIN2018～日本縦断チャリリレー～」への協力のお礼と報告がありましたので、紹介します。

たまニコ AGAIN2018～日本縦断チャリリレー～は、全国各地でたまごの正しい知識普及や魅力を消費者に伝えるイベントを行い、5月31日 ポートメッセなごや（国際養鶏養豚総合展 IPPS会場）のゴールに、全国6エリアの最終チャリダーが一斉にゴールしました。各地のイベントも盛大に行われ、タスキを繋いだチャリダーは総勢460名、イベントスタッフ1,127名、イベント来客56,100名と多数の集客がありました。

本プロジェクトは、鶏卵産業においても少子高齢化や人口減の影響、そして国際競争の一層の激化などが見込まれる中、科学的な研究の進展によって2015年版の米国の「食事ガイドライン」と、わが国の「日本人の食事摂取基準」からコレステロールの摂取目標量(上限値)が相次いで撤廃されたことなどを受け、国産鶏卵の生産農家やたまご問屋など、全国の“たまご業界人”が一致協力して立ち上がり、たまごの正しい知識や魅力を直接消費者に伝え、共通スローガン『たまごの素晴らしさをみんなに伝えよう!!』『日本のたまご産業の明るい未来は自分たちで創る!』を実現することを目的としています。



～ ゴール風景 ～





協会活動報告

[青字下線部クリックで、\(一社\)日本養鶏協会ホームページ内
該当事業のページが開きます](#)

鶏卵生産者経営安定対策事業

① 価格差補填事業の事業参加者との契約数量 (トン/月当たり)

平成27年度	161,936
平成28年度	164,846
平成29年度	162,353
平成30年度	169,171

② 7月の標準取引価格 177.11 円/Kg

(補てん価格 7.101 円)

平成30年度補填基準価格 185 円/Kg

平成30年度安定基準価格 163 円/Kg

② 平成30年度成鶏更新・空舎延長事業の実施状況 (平成30年6月30日現在)

規模	10万羽以上	10万羽未満
交付件数	26	32
出荷羽数(羽)	865,023	268,998
処理羽数(羽)	859,287	267,678

統計データ

【相場動向】過去10年間の7月相場<Mサイズ>

	平均値	高値	安値
平成21年	154	178	144
平成22年	177	208	154
平成23年	170	203	159
平成24年	160	183	149
平成25年	157	186	147
平成26年	190	213	179
平成27年	213	238	204
平成28年	184	213	174
平成29年	191	215	176
平成30年	173	193	159
平均値	177	203	165

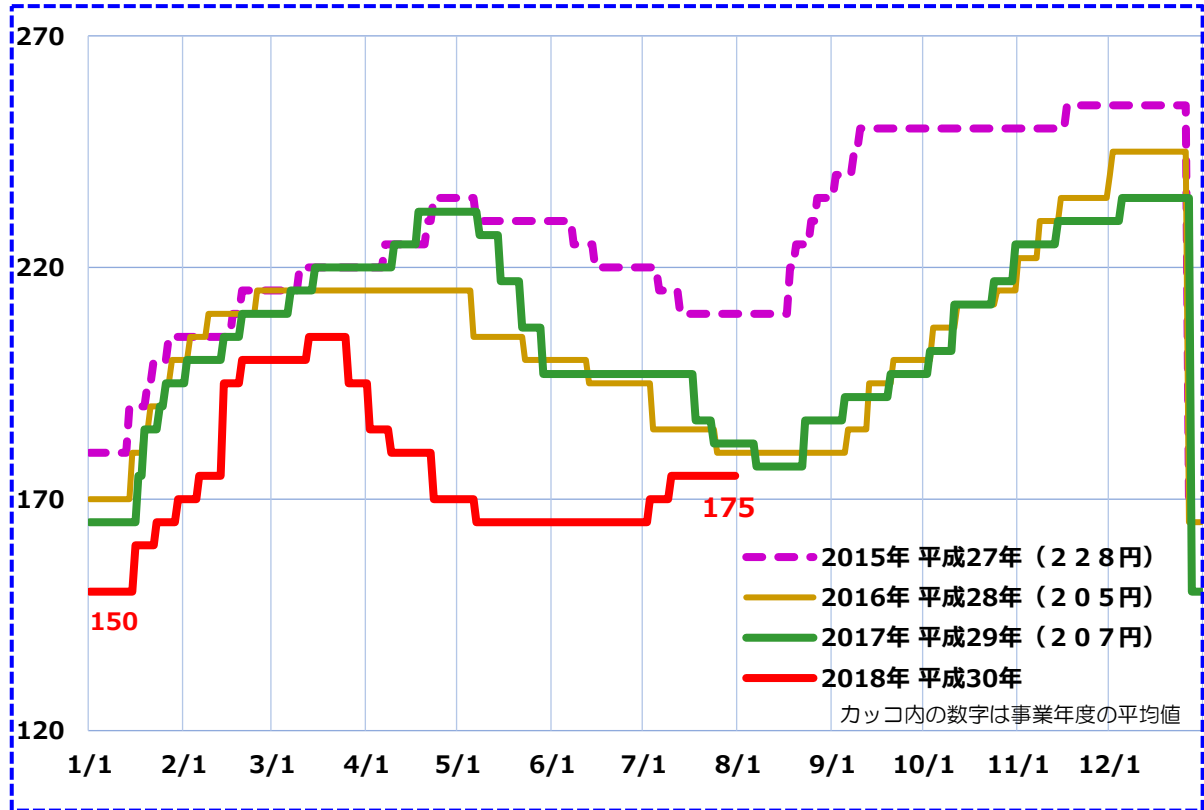
平成30年7月の鶏卵相場(東京全農Mサイズ)は、平均値は173円、高値は193円、安値は159円といずれも過去10年間の平均値を下回る低い相場となっています。



日鶏協ニュース

平成30年8月号
一般社団法人 日本養鶏協会

【鶏卵相場推移 2015年～2018年 事業年度 東京全農Mサイズ 円/Kg】



7月の鶏卵相場は、165円でスタートし3日に170円、10日に175円まで上昇し横ばいで推移しています。この時期、平成28年度の180円と比べ5円安い相場となりました。

【鶏卵関係主要計数】平成30年5月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
			成鶏用		一人当たり		東京全農M	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	前年	本年
29年 6月	9,759	105.8%	474	102.1%	843	97.2%	197	197
7月	9,889	104.2%	455	103.2%	866	100.2%	184	191
8月	8,339	98.4%	466	102.3%	849	104.6%	180	182
9月	9,014	98.1%	566	103.9%	858	101.3%	192	194
10月	9,225	100.9%	487	104.2%	910	100.2%	211	211
11月	9,519	107.7%	494	102.9%	899	102.8%	231	228
12月	9,081	98.6%	536	102.1%	936	103.0%	245	234
30年 1月	9,387	101.2%	477	103.9%	889	104.6%	179	159
2月	9,034	109.1%	461	102.7%	862	102.2%	204	189
3月	9,940	102.0%	522	101.7%	896	102.3%	217	201
4月	9,503	104.3%	477	101.8%	885	97.6%	227	179
5月	10,035	111.1%	503	101.2%	965	108.4%	216	165
1年間合計平均(%)	112,725	103.5%	5,918	102.7%	10,658	102.0%	207 (平均)	194 (平均)

注:雛餌付羽数は全国推定値



日鶏協ニュース

平成30年8月号
一般社団法人 日本養鶏協会

- ・雛餌付羽数は、1千万羽を超え、前年同月比も11.1%と大きく上回って推移しており、年間で3.5%上回って推移しています。
- ・配合飼料出荷量は、50万トンと前年同月比を1.2%上回り、年間でも前年比を2.7%上回って推移しています。
- ・鶏卵の家計消費量は、過去1年間で最高の965グラムで前年同月比も8.4%上回って推移しています。
- ・これらの統計では、供給サイドでは1月以降前年を上回って推移し、家計消費などの需要サイドでも堅調な展開となっていますが、成鶏更新・空舎延長事業の影響等を注視する必要があります。

夏季一斉休業のお知らせ（8月13日）

当協会では、8月13日（月）を誠に勝手ながら当協会事務局の夏季一斉休業日とさせていただきます。

このため、夏季休業中の各種お問い合わせにつきましては、8月14日（火）以降の対応となりますので、あらかじめご了承ください。

皆様方には大変ご迷惑をおかけしますが、理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内（5階）

TEL：(03)3297-5515 FAX：(03)3297-5519 発行日 2018年8月1日

編集・発行責任者：小田上浩史(info@jpa.or.jp)

